

「真夏の方程式」★★★★

2013（平成25）年5月23日鑑賞〈東宝試写室〉

監督：西谷弘

原作：東野圭吾『真夏の方程式』（文藝春秋刊）

湯川学（変人で天才的な頭脳を持つ物理学者、帝都大学物理学准教授）／福山雅治

岸谷美砂（警視庁捜査一課新米刑事）／吉高由里子

草薙俊平（警視庁捜査一課刑事・警部補）／北村一輝

川畑成実（恭平のいとこ、環境活動家）／杏

川畑重治（成実の父、旅館「緑岩荘」の経営者）／前田吟

川畑節子（成実の母、柄崎敬一の姉）／風吹ジュン

仙波英俊（16年前の元ホステス殺人事件容疑者）／白竜

塚原正次（元警視庁捜査一課刑事で被害者）／塩見三省

柄崎恭平（好奇心旺盛な小学生）／山崎光

柄崎敬一（恭平の父）／田中哲司

三宅伸子（16年前に殺害された元ホステス）／西田尚美

2013年・日本映画・129分

配給／東宝

＜数学の方程式は苦手だったが、こんな方程式なら・・・＞

司法試験の勉強を独学で始めた時はじめて「勉強って面白い」と感じた私は、01年から始めた映画評論の執筆においても、また60歳から始めた中国語の勉強においても、自分の力で考えてモノを書き、語学をマスターしていくことは本当に楽しいと感じている。そんな目で見ると、子供が苦手というより嫌いで、普段は子供に近づかれただけでじんましんが出てしまうという湯川学（福山雅治）が列車の中ではじめて出会い、本作のストーリー形成に重要な役割を担う10歳の少年・柄崎恭平（山崎光）に対して勉強に取り組む姿勢を教えるシーンは興味深い。「理科なんて大嫌い」という恭平と同じように、私も中学に入るとすぐに始まった数学の方程式は苦手、その後2次方程式、3次方程式、微分積分と進んでいく過程はイヤでたまらなかった。しかし、東野圭吾の傑作『ガリレオ』シリーズ屈指の感動作との呼び声も高い『真夏の方程式』なら、方程式のテーマが数字ではなく、人間の性や人間の営みだから、その方程式のどこに何を入力すればどんな「解」が出てくるのか？非常に興味深い。

問題の発端は、美しき海の町、玻璃ヶ浦で真夏の夜に起きた塚原正次（塩見三省）の死亡事件。これは事故？それとも殺人？元刑事だった塚原は、なぜ玻璃ヶ浦の町へ？変人の物理学者ながら天才的な頭脳を持つ湯川が、警視庁捜査一課刑事の草薙俊平警部補（北村一輝）と新米刑事の岸谷美砂（吉高由里子）の依頼と協力を得ながら解いていく方程式とは？数学の方程式は苦手だったが、こんな方程式なら俺だって・・・。

＜方程式解明のポイント1、玻璃ヶ浦の海＞

本作のプレスシートに書かれてあるストーリー紹介はきわめて簡潔で、「複雑に絡み合う因縁。重ねられた嘘と罪。そして、深まりゆく『謎』・・・。ガリレオ湯川は、その哀しき方程式を解き明かす事ができるのか。」としか書かれていない。本作のような「ミステリー小説」ではそれも当然で、あの謎やこの秘密、あのミステリーやこのミステリーを事前にネタバレらしするのはナンセンス。しかし、前述のストーリー紹介だけでは全く何のことかわからないため、私なりの真夏の方程式解明のためのポイントをいくつか紹介しておきたい。ポイントその1は、本作の舞台となる美しい玻璃ヶ浦の海だ。

開発か保全かをめぐる価値観の対立はどこにでもあるが、28歳の美しい地元の娘・川畑成実（杏）は父親・川畑重治（前田吟）、母親・川畑節子（風吹ジュン）が経営する旅館「緑岩荘」を手伝いながら、玻璃ヶ浦の海を守る環境活動家として積極的に活動していた。今、玻璃ヶ浦では某企業による海底鉱物資源の開発計画説明会が開催されていたが、そこにパネラーの一人として招かれたのが湯川。開発を目指す企業の説明に成実たち環境保全派は猛反発したが、他方で開発容認派の住民も多いから、地元は真っ二つに分かれて対立。そんな中、湯川は一人科学者として独自の見解を表明していたが、それを聞いていると、なるほどこの男は変わり者・・・。玻璃ヶ浦の守り手と自称する成実はそのブログに「『海の番人』を目指す。いつまでもあなたをお待ちしています」と書いていたが、さてその文章の中に秘められた深い意味とは？

＜方程式解明のポイント2、塚原の死亡は？＞

本作は冒頭、何者かが激しい息づかいで駆けていき、鉄道上の陸橋を歩いている女性を刺し殺すシーンが、手ブレの激しいカメラで収められた映像によって紹介される。その直後の新聞記事によれば、この被害者は三宅伸子（西田尚美）、40歳だ。そしてその直後、伸子の知人であった仙波英俊（白竜）が犯人として逮捕されたことが明らかにされる。これが真夏の方程式を解く一つの謎となることは明らかだが、湯川が玻璃ヶ浦に招かれて行っている今は、それから16年後のことらしい。

湯川が泊まっている旅館は緑岩荘だが、そこにはもう一人初老の男・塚原が泊まっていた。そして、緑岩荘での夕食や重治と恭平との楽しい花火大会(?)を終えた翌朝、何とこの塚原が海岸で死体として発見されたから地元は大騒動に。しかも、被害者の身元を調べていくと、塚原は何と元警視庁捜査一課の刑事だったというから驚きだ。警視庁でこの報告を聞いた草薙と美砂は、16年前の三宅伸子刺殺事件を担当したのが塚原刑事であったことを突きとめ、美砂は直ちに玻璃ヶ浦へ急行。そしてかねてから親交の深い(?)湯川に事件の推理を依頼した。さて、この元刑事・塚原の死亡は事故死？それとも殺人・・・？

＜方程式解明のポイント3、一酸化炭素中毒死の謎は？＞

もっとも、死体解剖の結果、塚原の死因は堤防からの転落死ではなく、転落の前に一酸化炭素中毒で既に死亡していたことが判明したから、捜査の初期の段階で事故死でないことが明らかに。すると、塚原は緑岩荘に泊まっている時に、部屋の中で一酸化炭素中毒死を？そして、その後誰かが塚原の死体をわざわざ海辺まで運び、堤防から転落させたの？そんな問題意識で緑岩荘では大掛かりな現場検証が実施されたうえ、重治からの詳しい事情聴取もなされたが、さてその結果は？

そんな状況下で湯川は泳げない恭平に対して、玻璃ヶ浦の海の中の美しさを見せてやるために物理学者らしく(?)ある実験を思いつき実行するが、これが本作の一つのハイライトになる。結果的には「なるほど、こりゃすごい！」と湯川の知恵に感心することしきりとなるのだが、その過程そのものが変人の湯川と10歳の少年・恭平が心を通わせることになる過程としても重要なので、この実験に注目！そんな実験にかまけていた(?)湯川だが、一方で現場検証の様子を見ながら、他方で恭平から屋上の上には外からは全然見えない煙突があることを聞くと、たちまちある推理がピンと・・・。

ちなみに、私はかつてバブル時代に大阪北新地にある高級料理店「紙なべ」で料理を食べたことがある。ここの名物料理「紙なべ」は、今ドキの電磁調理器ではなく、炎の上に紙でつくった鍋を置き、そこにダシを入れて鍋料理を楽しむものだ。誰でも最初は紙でつくった鍋を火で煮たら紙が燃えてしまうのでは？と心配してしまうが、なぜかこの紙は燃えないのでご安心を。本作では、湯川が恭平と一緒に緑岩荘で出された夕食の紙なべを食べている時に天才物理学者らしく(?)その理屈をわかりやすく恭平に説明してくれるので、あなたもしっかりそのお勉強を。その会話を陰でじっと聞いていたのは重治だが、そんな「紙なべ論争」が塚原の死因分析や犯人究明に一体何の関係が・・・？

＜方程式解明のポイント4、この家族が抱える秘密とは？＞

風吹ジュンは昔から私の大好きな女優。1952年生まれの彼女は60歳を超えた今でも結構美しい。本作ではそんな彼女が演じる川畑節子がストーリー形成上大きなポイントとなる。三宅伸子刺殺事件の直後、母娘で泣きながら抱き合う姿が登場するが、さてその意味は？本作では美砂が個々の情報の整理役(?)として湯川との名コンビを形成しているからそれにも注目したいが、その面白さにかまけていると方程式解明の集中力がボケてしまうかもしれないので要注意！もっとも、美砂が集めた情報を湯川に報告する過程の中で、西谷弘監督は小出しに過去の映像を見せてくれるので、それが方程式を解く大きな手がかりとなる。

今から16年前の三宅伸子刺殺事件当時の節子は子持ち女でも相当キレイだったから、料理屋で働いていたという独身時代の美しさはいかばかり・・・。しかも美砂の調査によると、節子は美人であったばかりではなく、気立てもメチャ良かったらしいから、料理屋のお客たちにもてまわっていたのは当然。三宅伸子の殺人犯として逮捕された仙波も、また現在節子の夫となっている重治も、かつてはその料理屋の客だったらしい。さらに、三宅伸子は成実の友人だったから、彼ら彼女らの間には一体どんな関係と秘密が・・・。現在節子は夫の重治と共に慎ましく緑岩荘の経営をしているようだが、その娘・成実を含めて、この一家にはどんな秘密が・・・？

＜方程式解明のポイント5、湯川の価値観と人生観は？＞

5月13日の「慰安婦」発言以降、橋下徹大阪市長は苦境に立たされているが、これを猛烈に批判する「みんなの党」の渡辺喜美代表の姿勢を見ていると、この2人の対立の「原点」は価値観と人生観にあるのでは、と思えてしまう。ガリレオこと湯川が変人であることは『ガリレオ』シリーズ全編を通したテイストだが、本作に見る彼の価値観と人生観は決して「変人」のそれではない。世間的な常識に多少疎いところがあったり、対人関係におけるくだらない気遣いを無視する(?)など、たしかに湯川には多くの「変人的要素」があるが、全くブレないその価値観と人生観は立派なものだ。

彼の価値観と人生観が最初に示されるのは、玻璃ヶ浦の開発をめぐるもので開発かそれとも環境保全かという100か0かで対立するのは無意味で、まず知ることが大切だというものだ。私も弁護士としてこの価値観と人生観には100%同意しているため、こんな人気シリーズで湯川がここまでハッキリこんな見解を述べることに大賛成だ。したがって、開発絶対反対を叫ぶ成実に対して、湯川が「海中の捜査を行うことは海を汚すことにはならない。すべてを知った上で開発か保全かを決めるべきだ」と教える姿勢には共感できる。また、湯川が理科の嫌いな恭平に対して、貴重な時間を割いて奇妙な実験をしたのは、恭平に対して物ゴトを自分の頭で考え合理的な結論を導くことの大切さを教えるためだから、これにも納得できる。本作で湯川は「すべてを知った上で自分の進むべき道を決めるべきだ」というセリフを再三述べるが、この価値観と人生観が数学や理科の方程式ではなく、人間の性や人間の営みについての真夏の方程式を解くカギになるので、本作中盤以降のストーリー展開に注目したい。

ちなみに、刑法には「間接正犯」という理論がある。これは自分が直接手を下さなくとも、事情のわからない第三者を道具として利用し、その道具に犯行を実行させた場合、第三者を利用した者が間接正犯として、犯罪の責任を負うというものだが、そんな刑法理論を知っていれば、本作の理解がより深まるはずだ。また、湯川のいう価値観と人生観が具体的な人間に対して与える大きな影響についても、「なるほど」と納得できるはずだ。そんなこんなを考えると、さすが東野圭吾の原作はよくできている、と感心！

2013（平成25）年5月25日記